シカと人の共生学ぶ

「奈良公園ＳＤＧｓ」

奈良町で子どもら

傷つけぬ工夫に感心

１３００年前から続く文化や自然が息づく奈良の魅力を知り、持続可能な社会の実現への行動力を育む世界遺産フィールドワークシリーズ「遊ぼう！　学ぼう！　奈良公園ＳＤＧｓ自然学校」が７日、奈良市内で行われた。

奈良教育大と奈良商工会議所や県旅館・ホテル組合、県、奈良市などでつくる「奈良新しい学び旅推進協議会」の主催。この日は市街地でシカと人が共生する世界で唯一の町、奈良町の先人たちの工夫を探し、その意味を考えるフィールドワークを展開。児童と家族10組20人が渡辺伸一・奈良教育大教授と現地を巡り、シカから家屋を守ると同時にシカを傷つけない形状を工夫した「鹿格子」などについて学んだ。

子どもたちは資料が見られるタブレットを手に活動。同大学付属小４年丸山紗穂さん（９）は「先生の説明と関係のある所の写真を（タブレットで）たくさん撮った」。母智子（さとこ）さん（45）は「奈良町には何度も来ているが知らなかったことがたくさんあった」と話した。

今後の同シリーズ参加者も募集中。21日は「春日山原始林の今」、28日は「奈良のごみ・地球のごみ」を実施。両日とも午前９時から正午まで。家族２人１組で申し込む。各日先着10組20人。参加無料。申し込み・問い合わせは同協議会事務局、電話０７４２（２０）７８０７か、ホームページhttps://nara-manabitabi.com/school2021/。

タブレットを手に活動する子どもたち＝７日、奈良市登大路町の興福寺境内